



(上から)中学生と赤ちゃんのふれ愛交流事業
／夏休み講座「ジュレづくり」／映画『タカ
ハマ物語』の1シーン／石巻市大川小学校を
訪れた子ども防災リーダー養成講座のメン
バーたち

んです。若い人が「高浜には楽し
める場や活動できるようなことが
何もない」ということから、「ア
ミューズメント施設やテーマパー
クがあればいいの」という話に
なったりする。そうではなく、若
い人たちが主体になってわか
れることをみつけてほしい。

自分ごととして地域の問題を捉
える姿勢が若い人の中に出てくる
と、今まであまりまちのことに関
心のなかった人たちも「自分もや
らなきゃ」って気づくのかなと思
います。

**楽しさを生み出す技術を手に入れ
た人は人生ずっと楽しい！**

山崎さん…結局、幸せは自分の心

が決めるのですが、幸せ度をアッ
プさせる基礎のところには、自分
がかかわれているかどうかという
点がある。「参加型」って言い尽
くされているけど、やっぱりそれ
は大事で、じゃあその参加に必要
なものは何かと言ったら「楽しさ」
だという気がします。「楽しさな
くして参加なし」だと。

市長…そのとおりですね。

山崎さん…そして「参加なくして
未来はない」んです。実際に参加
しようとした時に、眉間にシワ寄
せて参加！参加！って言っても長
続きしないし、人も増えない。「楽
しさをなくして人の参加はない」で
すよ。ではその楽しさとは何だろ
う？まさに『豊かさとは何か』の次
に「楽しさとは何か？」っていう

本を書かなきゃいけないんじゃない
いかと思うくらいです。しかし、
アミューズメントパークとか郊外
の大型店で「楽しませてもらう」の
は、真の楽しさではないと思いま
す。「自分たちでいかに楽しさを
生み出す技術を手に入れるか！」
これを手に入れた人の人生は、楽
しいんです。当たり前だけど、楽
しさを生み出す技術を自分で手に
入れているわけだから、楽しくな
くなったら、また次の楽しさを生
みだせる。だから、何かを呼んで
きてほしいとか、〇〇ランドみた
いなのがおしゃれなショップが欲
しいとか、やってほしいことを誰
かに期待するよりは、欲しければ
おしゃれなショップを自分たちで
作っちゃえばいい。めちゃめちゃ

抜群におしゃれなやつを。そうす
れば、それはすごく楽しいことの
はず。

市長…そうですね。自分で作って
しまうことの方が絶対に楽しい。

高浜市では市民ムービーを制作
したんです。「タカハマ物語」(※4)
というタイトルで中学生が主人公
をつとめ、制作にも市内の中高生
がいろいろな役割をもって参加し
ました。自分のまちを見直して愛
着を持ってほしいなということ、
若者の力でまちの新しい魅力を引
き出して発信してほしいなとい
う想いがありました。関係した若い
人たちは、自分のなかで相当変化
があったようです。こういう取組
みが発展して「まちを盛り上げる
ために自分にはこれができる。」み
たいに、まちを一人称で語ってく
れる方が増えてくれればいいなと
思っています。

山崎さん…いい取組みだと思いま
す。そうした「楽しさを自分たち
で作り出せる力」をどう生み出し



(※4)
『タカハマ物語』
2012年
監修・堤幸彦氏
監督・石丸みどり氏
104分
出演者から制作、上映まで延
べ約6,000人の高浜市民
が参加。
現在、第2弾「タカハマ物語
2 心のツバサ」制作準備中。